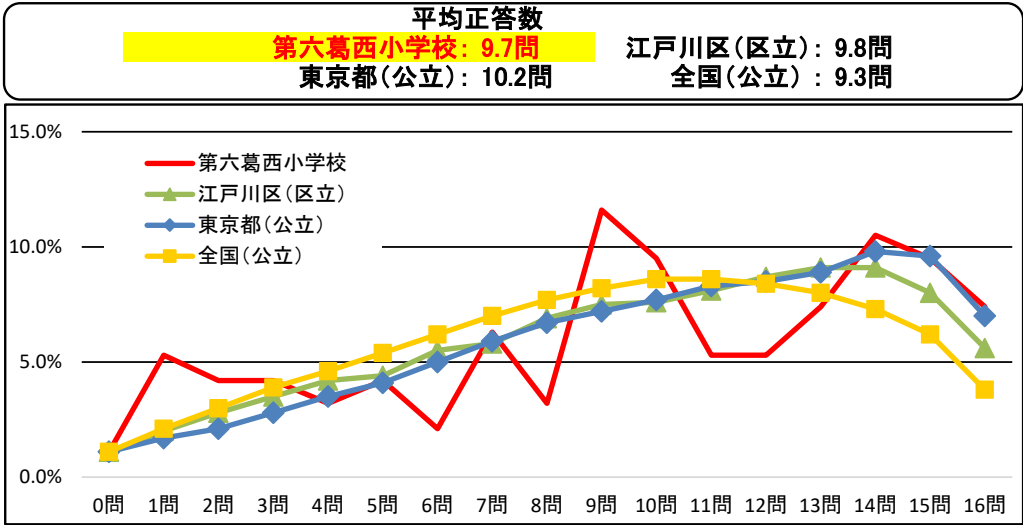


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立第六葛西小学校

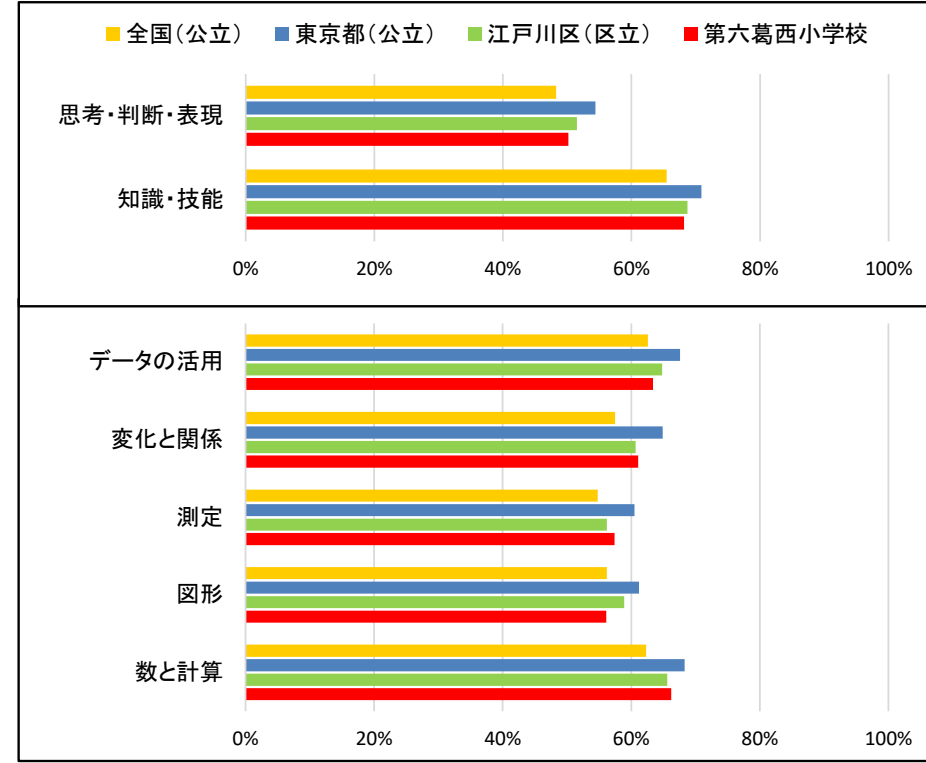
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

第六葛西小学校	60%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-4.0

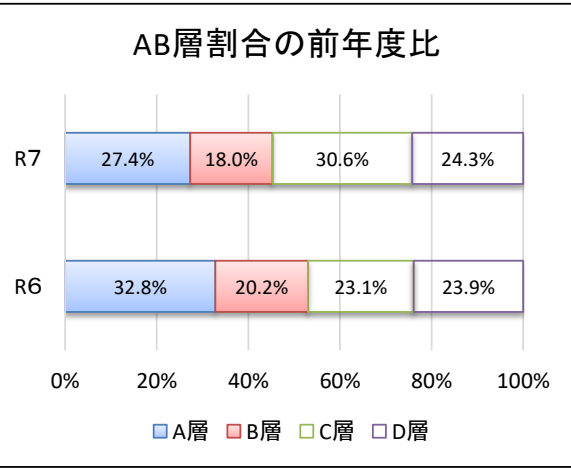
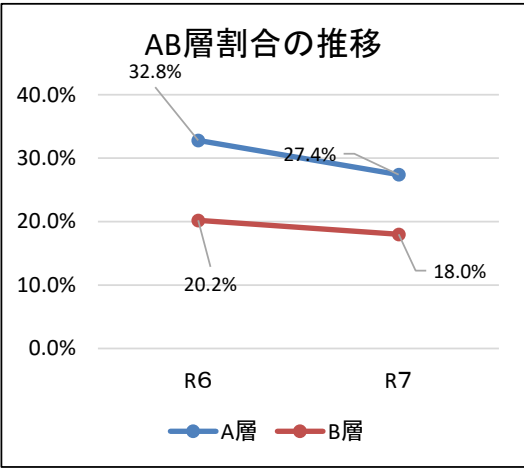
「領域別」の結果



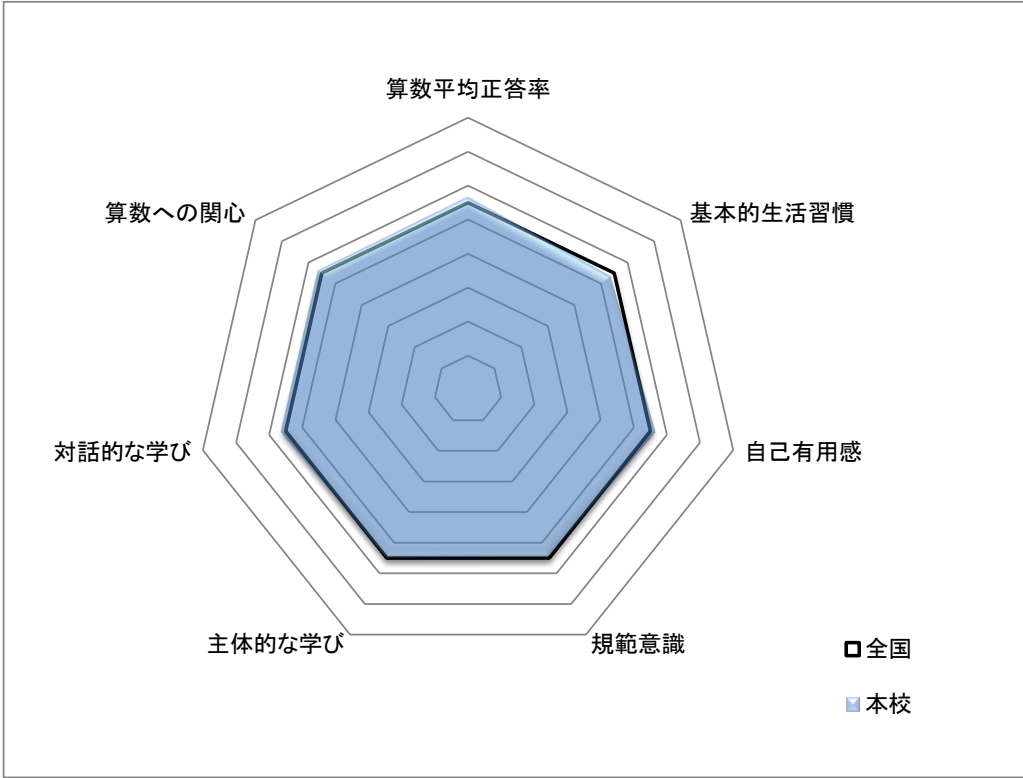
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

算 数	上位 ←				→ 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
第六葛西小学校	27.4%	18.0%	30.6%	24.3%	27.4%	18.0%	30.6%	24.3%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・全国の結果を1としてみた時に、平均的な様子が見て取れる。
- ・算数への関心、平均正答率については、全国の肯定的回答合計値を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者会や個人面談、学校公開、ホームページ等で児童の学習状況を伝え、保護者との連携している。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層の割合は、27%以上と都や区を上回っているが、AB層の割合は45.4%と全国、都、区を下回っている。「正答数分布」を見ると、平均正答数が10問以上になると人数が減っていることが分かる。「領域別の結果」から思考力・判断力・表現力を問われる問題にも課題があることも見取れる。知識を活用する力に課題が見られるといえる。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・「いきいきと学び、表現できる子を目指して」を研究テーマに校内研究を行い、指導方法や学習環境の工夫改善を図る。
- ・学力向上委員会を中心に、算数科スタンダードを活用した授業展開の基本を確立する。
- ・ICT研修を行い、ICTを効果的に活用した授業展開を共有し、改善を図る。

・基礎学力の保障

- ・習熟度別学習を適切に実施し、児童の理解度に合わせた授業内容、進め方を実施する。特に、CD層の児童には、日常生活の中で使う場面を例題に取り入れたり、補助プリントを作成したりすることで、知識の定着を図る。
- ・朝自習では、ドリルパークで算数科の内容を重点的に取り扱う。
- ・放課後補習教室を活用し、学力の底上げを図る。

・学習習慣の確立

- ・江戸川つ子study week!の期間にドリルパークで課題を配信し、取組状況を確認する。
- ・ドリルパークの正答率や取組時間などを取り上げ、頑張っている児童を認めることで、やる気を引き出す。

・AB層の育成

- ・ドリルパークを活用し、授業の課題が終わった児童に追加の課題を出したり、プリントを用意したりしてそれぞれの実態に合わせた個別指導を行う。
- ・多様な問題解決方法を考え、発表・交流する活動を取り入れる。